

関東ふれあいの道(栃木)⑭風土記のみち

2024年6月19日池内淑皓

2024年3月24日(日)晴れ。昨日は小山のホテルに泊まったから、今日は朝一番で行動出来る。
 今回のコースは、終日下野の国指定遺跡が散らばる、古代遺蹟群を歩く。
 みちのくの歌枕の地を訪ね、下野の国 郡衙跡、国分寺、国分尼寺、古墳とお目当てコース満載だ。



「関東ふれあいのみち(栃木)⑭風土記のみち」案内板は駅の構内にある



野州大塚駅から宇都宮線小金井駅まで、コース概念図



野州大塚駅から小金井駅までの行程図(17.5km、4時間30分)



8:00 丁度、東武宇都宮線の野州大塚駅下車(無人駅)



⑬と⑭コースの分岐点、風土記のみちは直角に左折する



麦畑に出るまでは里道を通る、道標も里程標もキチンとしているから、大丈夫



麦畑の中を道標に従って、しばらく行くと



大神神社(おおみわじんじゃ)の参道に行き当たる



参道は 200m程あろうか、長い



「大神神社」下野の総社、惣社明神、室の八島大明神とも云う
祭政一致の時代、国司がお参りした社であり、それは下野国中に分布する神々をお参りする代わりに、この神社に奉幣する惣社の神様であった



本体は、大和の国大神神社で、国司が御神体を分霊し、ここに祀った



「室の八島」 ”けぶり立つ” 万葉の時代、東国の歌枕の地として、都まで聞こえた名所であった



元禄 2 年(1689)3 月芭蕉もここを訪れているが、水煙もたたず、池の水も枯れ、興味を示さなかったと云う。
かつては、長者の屋敷跡で、その庭園であったと伝える



また暫く麦畑の農道を歩く



「下野の国 国庁跡」前殿:奈良時代律令下に於ける、地方統制の中核として設置された役所で、政治・経済・交易の古代文化を集約する拠点であった 国指定史跡



折角ここまで来たのであるから、記念に一枚、パチリ



「正殿跡」現在は宮野辺神社となっているが、多くの木簡が出土している



「西脇殿」昭和 51 年の発掘で遺構を確認した 杭は建物の礎石があった場所



付属の資料館では、多くの出土品が展示されている



思川を大光寺橋で渡る



「国分寺跡」(国指定史跡)国府跡から、小一時間程で到着する。
奈良時代の天平 13 年(741)聖武天皇の詔により、全国に建立された寺院



「中門跡」寺院の中心(金堂を囲む回廊に付く南側の門)



「南大門跡」



下野の国風土記の丘資料館



摩利支天塚古墳出土の埴輪(重文)



「太刀」銀製の柄が付いている



粹な名の付いた雑木林を散策してゆく



飛鳥、奈良時代 東国の防人達は、ここを通り遙か九州大宰府へ向かったのであろうか



「伝紫式部の墓」と伝える。 ロマンがあって良いね！
本当は、この地方の豪族の供養塔だと説明にある(鎌倉時代の五輪塔)



「琵琶塚古墳」(史跡)この辺りは、古墳が多い



「摩利支天塚古墳」ここから多くの埴輪類が出土して、 近くの展示館に陳列されている



収蔵館の埴輪たち



帰路は姿川沿いに小金井駅に向かう、桜は未だであったが



菜の花が土手一杯に咲いて、素敵な道だった



14:45 宇都宮線小金井駅に到着。コンビニがなくビールが買えなかった

[参考タイム] 小山駅(7:18)→野州大塚駅(8:00)→⑬・⑭分岐(8:18)→大神神社
(8:40-8:50)→国府跡(9:50-40:15)→国分寺跡(11:20-12:30 昼)→伝紫式部の墓→
(12:45)→摩利支天古墳(13:07-13:30)→JR 小金井駅ゴール(14:45)

この項完

「関東ふれあいの道(栃木)⑮ゆうがおのみち」に続く